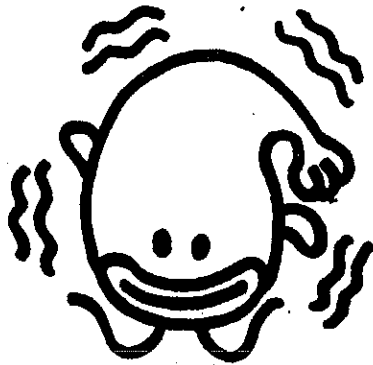


衣川台なまず通信

4号



発行 衣川台自主防災部

発行日 2006年3月15日

地下なまず（地震）へ自助と共助で ～防災部からのメッセージ～

琵琶湖西岸活断層がいつ動くか分からない、今日、明日かも知れないし100年、200年先かも知れない。大地震への対応は、この「未知」を前提に考えるしかありません。

それがいつであっても被害軽減に向けた備えを用意しておこう、そのためには、防災部の活動体制を「迅速」に確立すること、そして、それを「継続」させることの2つが必要だと考えております。

この1年、衣川台自主防災部は新たな決意のもとで、組織の充実、活動内容の明確化を図り、実行できるところから行動に移すという取組みに心掛けました。

地震への備えは、先ず第一に「家庭での備え」（自助）、次いで「地域での助け合い」（共助）でしょう。

各ご家庭で、火への対処、家具等倒壊への対処、飲食への対処、非常持ち出しへの対処等々を心掛けて頂くこと、防災部はこのことについて呼び掛け、助言したいと考えております。

ご近所による消火や救出、救護、それから一団となった避難や給食給水等については、皆で助け合う実効的な仕組みを考えて行くことも、防災部として大事なことと考えております。

間もなく新年度を迎えます。皆様方には変わらぬご支援、ご協力をお願いするものです。

あっ 地震！

このとき命を落とさないでください。
大怪我にならないでください。

自らの安全は自らで
家族の安全は家族で 守ろう

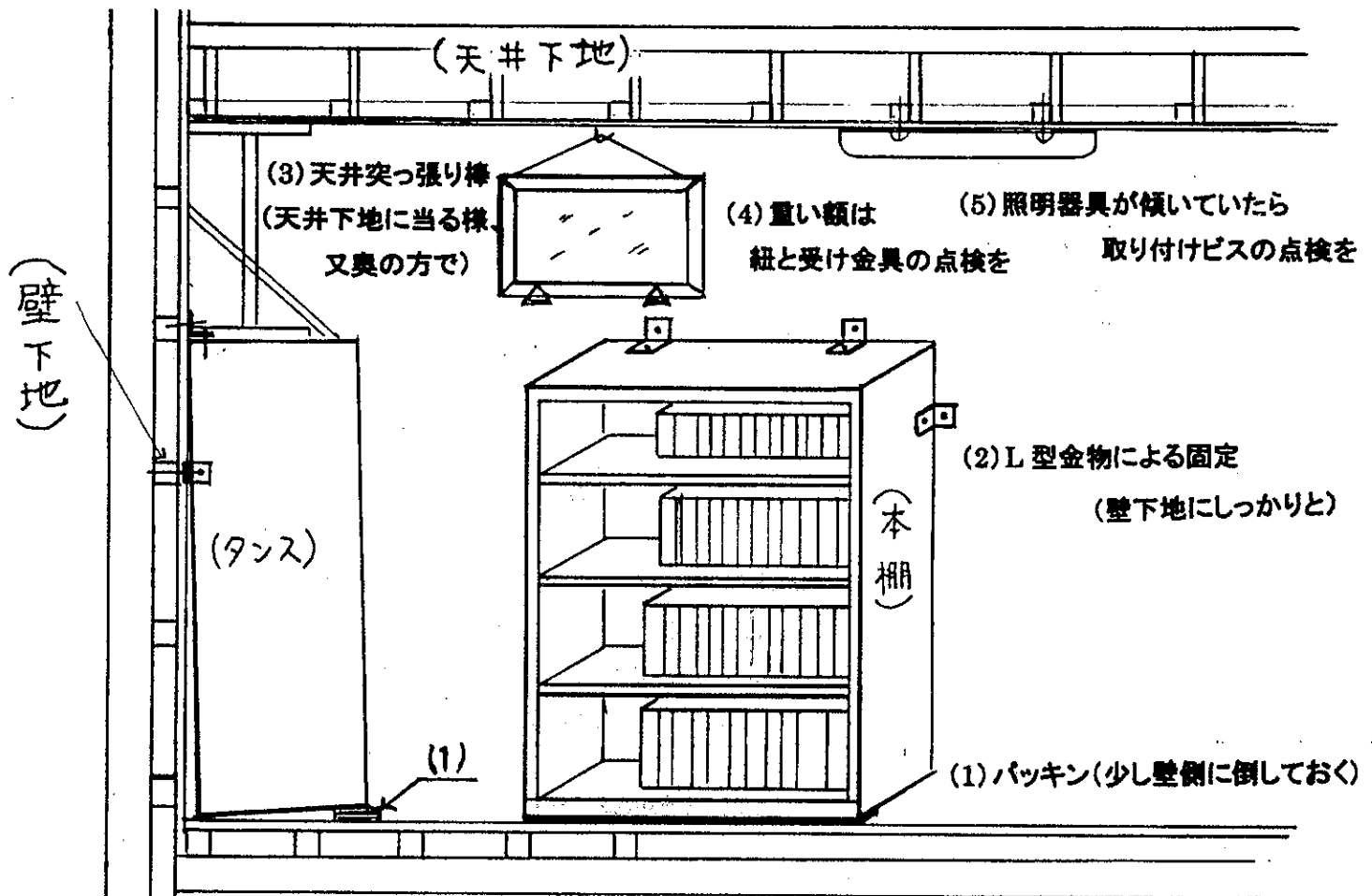
家の耐震補強も大切ですが、これはなかなか大変かもしれません。
まずは「家具の固定」から、それも寝室をスタートに！

皆さん、家具の倒れ止め対策はできていますか？
各部屋を順次見渡して・・・

・タンスは ・テレビは ・本棚は ・額縁は ・天井の照明は ……
どうぞ安全確認をお願いします。(事例は下図)

家具の固定(転倒防止)について、お困りの方は、防災部に相談ください。

(大地震時に怪我をした人を、防災部は、ご近所のお元気な皆様方と共に
お助けします。「助ける人」が多く、「助けられる人」が少ないことが大前提です。
どうぞ怪我なく「助ける人」になってください)



(6) その他 その場にあった倒れ防止策をしてください。

「第3回防災訓練」 アンケート要約



〔訓練内容〕 「避難訓練」(学区自主防災会 総合訓練を兼ねて)

昨年11月23日に、第3回目の防災訓練が仰木の里との合同で行なわれました。衣川台では避難所、避難場所、避難ルートの周知というテーマをかねて実施され、141名もの方々の参加があって、学区自主防災会側からも高い評価を受けています。ここに、参加された方々より寄せられましたアンケートの要約をご紹介します。

今回の避難ルートの設定は西側通学路経由のコースでしたが、しっかり確認できて役にたったという声が殆どでした。

☆ 良かった点

- ・ 避難所、避難場所、避難ルートの所在地を具体的に知り、確認できた。
- ・ 実際に里小まで歩いて地域の様子や、流れが把握できた。
- ・ 住民の方とのコミュニケーションがはかれて、楽しかった。
- ・ 救急処置、救出、消火栓、バケツリレーの訓練を見て大変参考になり防災への認識、啓蒙になった。
- ・ 訓練も積み重ねると、徐々に防災意識も高まって対応力がついてきたと感じる。

☆ 改善すべき点

- ・ 参加する人と誘導する人とのバランスや、配布物についての提案。
- ・ 避難所は、遠くへ行く前に、身近な衣川台の中で設定できないか。

☆ 各自が「避難」という事について、日頃考えていること

- ・ 避難場所の確保(屋内、屋外) ガスの元栓やブレーカーなどの安全点検。いつやってくるかわからない災害に、常に備えが必要。
- ・ いざ災害となるとはたして対応できるか。必要最小限の準備をもう一度確認しておきたい。
- ・ 家庭で避難する場所を決めている。緊急の実避難を体験しておくべきと考える。
- ・ 日頃から、隣近所の親睦を深めておく。そのために何か出来ないか。
などの心強い言葉もありました。

防災訓練の写真をご覧下さい。

第1回からの衣川台自主防災訓練を撮影した記録写真を、南自治会館に常時掲示しています。お立ち寄りの際に、皆さんの熱心な訓練の様子をご覧下さい。

防災インタビュー

あなたの家の防災対策は？

四組の田村さんにお聞きしました。

§ 地震対策で1番大切なことは何だと思えますか？

田村さん まず「命を守る」ことです。

次に3日もすると救助が来ると思うから、3日間家族で生き延びることだと思えます。

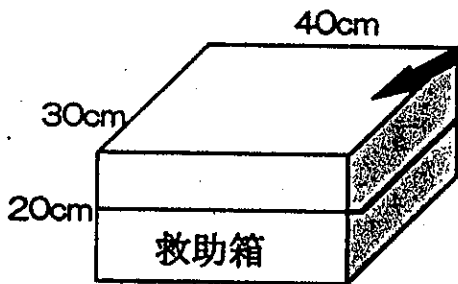
§ 具体的にどんな防災対策をされていますか？

田村さん 家具転倒防止の備えはもちろんのこと、自動車の中には3日間暮らせるぐらいの救助箱を備えています。救助箱は家の外で取り出しやすい所であれば、どこでもいいと思えます。

簡易コンロやガスボンベ・テントなど縁側の下に置いてあります。

§ 救助箱には何が入っていますか？

田村さん 次のような物をいれています。



* 中に入っているもの

- ・水 (5年の保存できるもの)
- ・小型ラジオ・下着・歯ブラシ
- ・食料品 (カップヌードル、カンパン、缶詰、小型しょうゆ、塩、角砂糖、アルファ化米)
- ・救急セット・ガムテープ

§ その他何かありましたら？

田村さん キーホルダーに車の鍵と一緒に超小型の懐中電燈をつけて持ち歩いています。女性ならバックにいれて常に持ち歩けばいいと思えます。(直径5cmぐらいのもので)

§ ご協力ありがとうございました。